

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	記載者	大橋 幸彦
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	一人一人の良さや人格を認め、多様性を尊重する思いやりの心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの良さに気づき、自分も友達も大事にしながら学校生活を送ることができる子</li> </ul> <b>【幼児児童生徒・保護者・教職員 AB90%】</b>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが自分の良さに気づき、短所も前向きに捉えられる学習が進んでおり、自己肯定感の向上が将来のコミュニケーション力につながる。</li> <li>学年を越えたつながりや地域との交流が深まっている。少人数ゆえに学び合いの機会が限られるという指摘もあるが、周囲の大人との関わりが経験を補っている。</li> </ul>
イ	<b>自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練や学習をもとに、自分の命を自分で守るための考えをもち、行動する子</li> </ul> <b>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】</b>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯・防災の学習が訓練や体験を通して実践的に行われており、掲示物など視覚的な工夫も含めて、子どもたちが自分で考えて行動する力を育てている。</li> </ul>
イ	健全な心と体の成長促進及び自己管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に身体を動かしたり、関わりをもったりする子</li> <li>自分のことを深く知ることができる子</li> </ul> <b>【児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】</b>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼少期からの経験が将来の活動にもつながっている。体を動かす楽しさや自分の力を他者のために生かす姿勢が育っている。</li> </ul>
ウ	<b>ICT活用による個別最適な学びの実現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した学びが、「分かる」「楽しい」と感じている子</li> </ul> <b>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】</b>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員同士の授業参観や意見交換を通して教え方を高めていくことが重要であり、ICTの活用も今後必須になる。授業の中で「楽しい・わかる」を実感できる工夫が求められている。</li> </ul>
エ	子供が楽しく対話し協働することで、資質・能力を身に付ける学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分で問いを見つける学びが楽しい」と答える子</li> </ul> <b>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】</b>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で課題を見つける学習は難しく、特に少人数では子ども同士の気づきが生まれにくい。年齢に応じた交流活動を積み重ねていくことが大切。</li> </ul>

様式第5号

エ	自立活動の指導を通じた充実した聴覚障害教育の実現	・「人との会話が楽しい」と答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】	B	A	・ 人との会話が楽しいと感じられる場面づくりや、健聴者と障害者の共生について考える機会が重要。地域の人材や資源を活用した取り組みを今後も続けてほしい。
オ	共生社会を生きる力につながるキャリア教育の充実	・『交流及び共同学習』の積み重ねから得られる学びが楽しい」と答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB80%以上】	A	A	・ 地域住民との交流を次年度も続けてほしい。
オ	ウェルビーイングの向上による教育活動活性化のための学校体制づくり	・「主体的に教育活動と事務業務の連携を図った」と答える教職員 【AB80%以上】	A	A	・ 事務との連携が良好である。さらに、教員の仕事量に余裕を持たせることで授業準備や生徒との関係づくりになるとよい。評価アンケートの数値にこだわりすぎず、個別の意見の反映も必要。
カ	校内外の専門性を生かした教育相談及び乳幼児教室の充実	・ 必要な情報等が得られ、安心して相談を受けられた教育相談利用者 【AB80%】	A	A	・ 自分の子を人の子と比べて、悩んでいる保護者が多いので、交流の場があるのは、とても良いと感じた。
キ	在籍校と連携した通級指導教室の充実	・ 自己理解が深まり、在籍校の学校生活が充実していると答える通級児童生徒及び保護者と在籍校担任 【AB80%】	A	A	・ 地域支援部、通級による指導の役割は、聴覚特別支援学校の専門性を地域の小中学校に広げていくことだと思う。担当範囲も広く、活動も幅広いので、体制の充実が大切だと思う。
ク	特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化	・「校内や関係機関、3 聾との連携を図りながら、センター的機能を発揮できていると答える教職員 【AB90%】	A	A	